☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１７０　　令和元年５月２３日

❀　毎月２３日は「福岡市 子どもと本の日」です　❀

～　子どもの読書活動を推進しましょう　～

中学校図書館教育研究会総会

福岡市中学校図書館教育研究会総会が，４月２２日（月）福岡市教育センターで行われました。

総会は，はじめに，研究会長の高木校長から，第２次福岡市教育振興基本計画や今年度の重点施策の中で読書活動の推進がひとつの柱になっており，昨年度に比べて学校司書の配置が手厚くなったことや学校図書館支援センターを活用して学校図書館をもっと利用してほしいなどの話がありました。

（会長の話）

次に，「自ら学ぶ力を育て，豊かな心を培う学校図書館」という研究テーマのもと，研究会主催による年２回の自主研修会や中学生図書委員交流会の実施，福岡市子ども読書フォーラムへの参加などが今年度の活動として承認されました。

（中学校用セット本の紹介）

その後の研修会では，学校図書館支援センターの小久井読書相談員が講師となって，「学校図書館を授業で活用する」というテーマで，昨年度の学校図書館支援センターの学習支援用図書※の活用事例や中学校用セット本の紹介などの話がありました。

（学校指導課の話）

（中学校用セット本を見る先生方）

最後に，学校指導課の小野主任指導主事から子どもの読書活動推進のため，学校図書館支援センターが設置されたことや学校司書の配置などの話がありました。

研修会が終わった後，前に並べられたセット本を見たり，読書相談員に支援内容を聞いたりしている姿が多くみられました。

中学校の図書館教育研究会の役員や図書館担当者の熱心さを感じる研究会総会でした。

※児童・生徒が学習で活用するための貸出図書です。
１セットは１０冊あり，貸出は８０冊まで，期間は４週間以内です。セットには，キャリア教育や国際社会に関することなど，１０分野４５セットあります。ご要望によりセット本以外の貸出もできます。

６月生まれの文学者

後藤　竜二（ごとう りゅうじ・本名　後藤 隆二）と「天使で大地はいっぱいだ」

北海道美唄市　1943 年 6 月 24 日生まれ　2010 年没

家が野菜農家で，子どもの頃野球ばかりしていた後藤氏が早稲田大学入学とともに早大童話会から改名した少年文学会に入ったのは，小さい時から物語を生み出す人へのあこがれがあり，何か情熱をぶつけられるものに出会えるのではないかと思ったからでした。

大学３年の時，新入生歓迎会で骨折して退屈だったので非行に走る少年の本当の気持ちを描こうと思い，受験競争への恨みを「現代っ子」といわれる子どもの姿と重ね，原稿６００枚を超える「台風の眼の中」を２週間ほどで書き上げました。

数人の仲間がこの原稿を手分けして１０日間かけてガリ版で切り，機関誌「少年文学」に載せてくれたことから，後藤氏は感激し児童文学を書き続けることを決心したそうです。

作家デビュー作「天使で大地はいっぱいだ」は，大学卒業直前の２月に卒業論文のつもりで，ビル掃除のアルバイトをしながら講談社新人賞の締切りに間に合うように１日１０枚と決めて２０日ほどで書き上げました。この作品は，後藤氏がこれまでの日本の農家を描いた作品が，暗く，みじめたらしく，外から農民を見てあわれんで描いたものばかりだったので，まったくちがった農村を描きたいと思い故郷を舞台に書き上げたそうです。

後藤氏の作品は，「１２歳たちの伝説」シリーズや「おかあさんげんきですか」（日本絵本賞大賞），「1 ねん１くみ１ばん」シリーズなどあります。

荻原 浩（おぎわら ひろし）と「明日の記憶」

埼玉県大宮市（現・さいたま市）　1956 年 6 月 30 日生まれ

小学校低学年の頃は，読書家でなく空き地で野球や缶蹴りなどをして遊んでいました。

成城大学経済学部在学中は，広告研究会に入り時間に余裕があったため，人生の中で一番本を読んだ時期だったそうです。

自分の周りの学生が，広告代理店への就職を志望していたことや，コピーライターになれば後に会社勤めを辞めても独立できると思ったので広告代理店に就職し，３５歳で会社を辞めてフリーのコピーライターになると，自分の裁量で仕事ができ，時間が自由にできるようになりました。

３９歳の時に小説を書こうと思ったのは，広告の文章は自分や担当者が評価してもクライアントの一言ですべてがなくなるため，だれにも邪魔されない文章を書きたくなったからだそうです。１９９７年，初めて書いた長編小説「オロロ畑でつかまえて」は，小説すばる新人賞を受賞し小説家デビューしました。

新人賞受賞後も生活費を稼ぐために広告の仕事もしていましたが，次第に広告の仕事が減ってきたこともあり，小説家デビューして６年目の暮れに専業作家になりました。

「明日の記憶」は，若年性アルツハイマー症と診断された主人公とその家族の姿を描いた作品で，本屋大賞の２位になり俳優の渡辺謙氏の初主演で映画化されました。

荻原氏は，１日に７，８時間，月に５０枚から１００枚程度，連載１本，短編を１本書く程度です。作品は，「海の見える理髪店」（直木賞）「四度目の氷河期」などがあります。

♪ 福岡アジア美術館「６月の案内」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

９日（日），１１日（火），２３日（日），２５日（火）

・**時　間**:１１:３０～１２：００　　１３：００～１３：３０

・**場　所**:７階「キッズコーナー」（申し込み不要）

♪ 福岡市総合図書館「６月の案内」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊毎月のおはなし会

１日（土），　２日（日），　８日（土），　９日（日）

１５日（土），　１６日（日），　２２日（土），　２３日（日）

・**時　間**　**土曜日**：　１日，８日，１５日

１４：１０～１４：２５　赤ちゃん向けおはなし会

１４：３０～１４：５０　幼児向けおはなし会

２２日

１４：３０～１５：００　幼児～小学生向けおはなし会

日曜日：　１４：３０～１５：００　幼児向けおはなし会

１５：１５～１５：４５　小学生向けおはなし会

・**場　所**:「こども図書館　おはなしの家」

☆ あとがき

今年も，中学校図書館教育研究会総会を取材させていただきました。総会で実施が決まった生徒図書委員交流会は，昨年はビブリオバトルがおこなわれ，参加した中学生の本への関心の高さや自分のおすすめ本を堂々と発表する姿に感動しました。８月に予定してある今年の交流会では，どんな取組みをされるのか今から楽しみにしています。

今月紹介している荻原氏は，小説を書こうと思って実際に書き始めると，長い文章を書くのが思っていた以上に大変で，１年ぐらいして作品ができたときに，「公募ガイド」を見てノンジャンルの長編で一番締切日が近かったので「小説すばる賞新人賞」に応募したそうです。荻原氏の作家デビューまでのエピソードに驚きました。

図書館員のひみつの本棚　第１５７回

令和の時代が始まりました。

『こども「折々のうた」１００』
大岡信／著　長谷川櫂／監修　小学館　２０１９年　１５００円（税抜）

＜お勧め年齢＞

乳幼児――　低学年――　中学年――　高学年☆☆　中学生☆☆☆
高　校☆☆☆　一　般☆☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

〈本の紹介〉

新元号「令和」で話題の『万葉集』などから、短歌と俳句を厳選した子ども向けの日本詩歌集。1979 年から 2007 年まで、大岡信（詩人、批評家）が朝日新聞の 1 面に書き続けた詩歌コラム「折々のうた」（全 6762 回）の中から、詩歌と俳句を 50 ずつ選んで時代順に紹介。現代語訳、大岡信による解説文、ことばの解説、俳句には季語と季節、巻末には作者紹介がついています。

日本詩歌の素晴らしさを十二分に味わえる１冊です。

〈子どもに手渡す時のポイント〉

監修した俳人長谷川櫂の寄せた文章には、なぜ子ども向けの本なのに、恋や老いや死の句や歌を入れたかという熱い思いが述べられています。「人生は子ども向けにはできていません。」「こうしてこの本は短歌や俳句を知るだけでなく、人間の一生の案内図となりました。」という彼の言葉も、併せて子どもたちに伝えてあげられたらと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。